

平成 29 年度公立大学法人福知山公立大学業務実績報告書に係る質問一覧及び回答表

年度計画番号	質問事項	回答
2	2つの授業、演習、前期・後期各1回ずつ計4回の授業(?)で、30名以上の外部講師を招いたとあるが、どのように実施したのか。	学外講師を招いている授業は、グローバル特別講義(前学期、後学期各1回)、公共経営演習(前学期、後学期各1回)をはじめ、19科目であり、学外講師の招聘者数は35人であった。 15回の半期授業で概ね1回~2回招聘した。
4	講演会開催の対象者は地域住民であるように読み取れるが、中期計画における「教育の成果に関する目標を達成するための取組」である側面はどうであったか教えて頂きたい。	年度計画設定時は「学生参加」等を想定し、「教育の成果に関する目標を達成するための取組」の大項目に設定した。ただ、講演会の学生参加は、毎回4~5名の学生スタッフに限られ、教育の成果的側面が薄いため、平成30年度の年度計画においては、この大項目から削除している。
5	京丹後市、宮津市、伊根町でのフィールドワークの件数がわかれば教えてほしい。	フィールドワークの件数及び参加者は次のとおりである。京丹後市(3件、5人)、伊根町(1件、2人)、宮津市(0件、0人)であった。宮津市は募集をおこなったが、申込者がなかった。
5	5件のプロジェクトの参加人数を教えてほしい。	5件のプロジェクトの参加人数は、以下のとおりであった。 「ふらすあるふぁ」2人、「ゆら・安寿亭フェス」6人 「ふくちやまデザインチャレンジ」2人 「ふくちやま子ども食堂」2人、「IKURA」7人
6	「学生の就職に向けた実践実習の機会として、一定の有用性はあった。」とあるが、一定の有用性とは何か。	学生の就職に向けた実践実習の機会として、自己の職業適性や将来設計について考える機会となった。
7	報告会には地域の人々は参加したのか。	報告会の実施については、連携協力先を中心に一般の方にも広く周知している。平成30年2月17日に実施した報告会には連携協力

		先 5・6 人の参加があった。										
8	学生の予習・復習（授業外学習）の状況は、何により測定しているのか。	<p>年に 2 回実施している授業評価アンケートの項目の中で各授業に対してどれくらいの予習、復習をおこなったかを確認している。2017 年度のアンケート結果によると 1 授業あたりの予習・復習時間は、以下のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>2 時間以上</td> <td>110 人 (5%)</td> </tr> <tr> <td>1 時間半程度</td> <td>140 人 (7%)</td> </tr> <tr> <td>1 時間程度</td> <td>446 人 (23%)</td> </tr> <tr> <td>30 分程度</td> <td>618 人 (31%)</td> </tr> <tr> <td>0 時間</td> <td>658 人 (34%)</td> </tr> </table> <p>半数以上の学生が 30 分に満たない結果が出ており、今後、対策を検討していく。</p> <p>また、「小テスト」、「予習に基づいた質疑応答」、「予習を兼ねたレポートの提出」を実施し、予習・復習の確認を行う教員もいる。</p>	2 時間以上	110 人 (5%)	1 時間半程度	140 人 (7%)	1 時間程度	446 人 (23%)	30 分程度	618 人 (31%)	0 時間	658 人 (34%)
2 時間以上	110 人 (5%)											
1 時間半程度	140 人 (7%)											
1 時間程度	446 人 (23%)											
30 分程度	618 人 (31%)											
0 時間	658 人 (34%)											
8	最後の段落の部分は、年度計画以上の実施であるように感じるが、「3」でよいのか。	「4」との評価も可能であろうが、昨年度の評価委員の厳しい評価や「学生プロジェクト」実施 1 年目という点を考慮して「3」とした経緯がある。										
8	成果報告書を P D C A の観点からまとめたとの記述があるが、どのようなものか。	学生プロジェクトの報告書は、テーマ、連携協力者の概要、プロジェクトの背景と目的、プロジェクトの成果、本プロジェクトの課題、今後の展開が記述され、P D C A の観点からまとめた内容となっている。										
13	研修会、勉強会ごとの参加者数がわかれば教えてほしい。	<p>以下のとおり研修会毎の参加者数を記載する。</p> <p>6 月 Gmail の使い方、研究倫理、事務研修 (参加人数 教員 21 人 職員 11 人 計 32 人)</p>										

		<p>7月 アクティブラーニングやPBL、ルーブリック評価等の研修会（シンポジウム） ハラスメント研修 （参加人数 教員22人 職員8人 計30人）</p> <p>8月 地域協働型教育研究研修 （参加人数 教員21人 職員9人 計30人）</p> <p>9月 授業評価アンケートの分析に関する研修会 （参加人数 教員19人 職員1人 計20人）</p> <p>10月 戦後大学教育史に関する研修会（学外講師） （参加人数 教員17人 職員2人 計19人）</p> <p>11月 地域協働型実践教育、2年生ゼミの在り方に関する研修 （参加人数 教員19人 職員3人 計22人）</p> <p>12月 実践教育に関するグループディスカッションに関する研修会 （参加人数 教員19人 職員3人 計22人）</p> <p>3月 情報セキュリティー研修 （参加人数 教員18人 職員8人 計26人）</p>
16・91・122	<p>大学基準協会による評価内容において、優れた点に関する記述があれば教えてほしい。</p>	<p>大学評価分科会報告書での評価項目（評価基準毎）8項目の中 5項目がA評価（5段階評価）、3項目はB評定であった。</p> <p>大学評価結果において、本学の優れた点について以下の指摘があった。</p> <p>① アクティブラーニングを取り入れた授業運営を行っている。</p> <p>② 2017（平成 29）年度の入学生に向けては、「地域経営学」を学ぶために必要な学問分野を見直すことや、貴大学の教育方法の特色でもある「地域協働型教育」を実現するために、教育課程の再編成を行っている。とくに、演習系科目に関し、3年次の「地域</p>

		<p>経営研究」及び4年次の「卒業研究」につなげるよう、1～2年次に「地域経営演習Ⅰ～Ⅳ」を置いている。また、持続可能な地域社会の構築やグローバル育成のため、「グローバル特講」「『持続可能な社会』論」などの特徴的な科目を配したカリキュラムを編成している。両学科ともに教育課程は体系的に編成されており、授業科目の配置についても概ね適切に行われている。</p> <p>③ シラバスについては、統一されたフォーマットで全学生に配付するとともに、ホームページで公開されており、適切である。シラバスに基づいて授業が展開されているかについては、授業評価アンケートによって確認を行っている。教育内容・方法の改善に向けて、学期末に授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえ、教員はリフレクション・ペーパーを作成しており、アンケート結果への教員の意見、授業における改善点などを、学生が閲覧できるようにしている。</p> <p>④ 生活支援については、「学生委員会」が中心となり、クラス担任やゼミ担当教員等が連携しながら対応している。心身の健康面に関しては、入学時の「健康調査票」から状況を把握しているほか、月2回臨床心理士によるカウンセリングルームを開設している。また、ハラスメント防止のための対応として、「危機管理・人権・倫理委員会」が中心となり、「ハラスメントの防止等に関する規程」に基づき、説明会を開催して相談窓口等について学生及び教職員に周知している。</p> <p>⑤ 「北近畿地域連携センター」では、北近畿地域の企業を対象とした健康経営や食育に関する調査を行っている。また、校舎の2号館に、「Kita-re」という地域の相談窓口を設置し、地域からの提</p>
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>案を受けて改善策を大学として検討する仕組みを設けている。この施設は、学生が地域連携の取組みを行う際の活動スペースとしても活用されているほか、市民にも開放されており、地域と学生がともに地域課題に取り組むための活動の場を提供していることは評価できる。くわえて、高・大の接続事業として、地域活性化のアイデアを全国の高校生から募集し、表彰する「田舎力甲子園」のほか、学生が主体となった地域連携事業を推進するために学生チームを組織して企業と連携した事業を企画・運営する取組みなど、特色のある活動を行っており、今後のさらなる活躍が期待される。</p>
18	<p>試験結果の検証はなされているが、その結果を受けて、さらに多くの地域の学生の確保のための施策を検討しその施策を実施されたことはあるか。</p>	<p>平成 30 年度入学試験の推薦入試（地域枠）に志願者がなかった 14 の高校に対してヒアリングを実施した。それら 14 の高校は、4 年制大学への進学者は少なく、推薦入試の出願条件である評定平均値 3.8 を満たしている学生は、近年、安全志向から私立大学の指定校入試を受験する傾向が強いという回答が多く見られた。依然として地域枠を知らなかったという高校もあり、このヒアリングはその制度を周知する機会となった。</p> <p>推薦入試の評定平均値 3.8 という出願条件を引き下げれば、地域の学生の確保はより拡大すると予想される。しかしながら、出願条件の緩和は入学後の成績不振による休退学が懸念されるため、入試制度の変更には慎重に対応すべきと考える。</p> <p>平成 30 年度入学試験の一般入試については、昨年度と同じように、高校訪問し、高校教員向け入試説明会を本学において実施した。また、重点を置いて出張講義を実施した。</p> <p>これまでの広報活動により一定程度、本学への理解は得られてい</p>

		ると認識している。地域の学生の確保についての今後の施策は、継続的な広報に加え、高校への出張講義等を通じた関係構築が有効と考え、活動する。
23	計画の実施状況に記載されている内容の内、「福知山市が設置する将来構想に関する委員会に参画」した内容がどの部分で、「学内にチームを設け検討する」内容がどの部分か教えて頂きたい。	<p>「本学の将来計画については、将来構想検討タスクフォースを立ち上げて検討し、「将来構想・第2次案」として理事長に報告した。理事長は、平成29年7月19日の運営会議及びSDFDフォーラムにおいて全教職員に本学の将来計画の説明を行った。」とは、学内によるチームの検討内容である。</p> <p>その後福知山市が設置した「知の拠点」整備構想検討委員会及び福知山市が策定した「知の拠点」整備構想（平成30年2月）には、学長が委員として参画した。各委員会に必要な検討資料（例えば、福知山公立大学の財政運営試算（経常経費）及びキャンパス整備費用の試算等）を福知山市と協働して作成した。</p> <p>平成30年3月に学内に将来構想策定委員会、平成30年4月には学外者を含めた福知山公立大学新学部設置準備委員会を設置し、新学部設置の具体的準備・作業を進めている。</p>
24	「健康管理等に関する相談、支援」に該当する実施内容はありますか。	健康管理に関する相談は、毎週2日間（月曜日・水曜日）、保健室に看護師（非常勤）を常駐させ、身体に関する学生相談や、簡単な看護処置を実施した。
25	学生表彰はどのような学生が対象か、どういう観点で評価したのか。	学生表彰の対象となる学生については、学生の表彰に関する規程第2条において、「学業成績が、特に優秀であると認められるもの」「課外活動において顕著な成績又は業績を収めたもの」「風水害、火災等の災害又は事故に際して被害の防止その他応急の処置に功績があったもの」「他、学長が表彰することを適当と認める事績又は行為があったもの」と定めている。

		<p>この規程に従って、年度末に教職員から候補者を募り、学生委員会で候補者を選抜した上で、教授会にて承認を受けるという手順で行った。</p> <p>平成 29 年度は、学長賞 1 人、優秀学生賞 2 人、奨励賞 14 人を表彰した。学業、学友会活動、クラブ活動、ボランティア活動、地域貢献活動等を評価し、表彰を行った。</p>
37	「地域経営学研究会」が学内外の研究者・協力者等の連携を深めるツールになっていると理解してよいのか。	<p>学外研究者を講師としたセミナーを 2 回、学内研修を 3 回、合宿研修を 2 回開催した。このような活動をとおして学内外の研究者・協力者等の連携を深めた。</p>
38	京都工芸繊維大学への設計委託は 29 年度に実施したのか。	<p>平成 29 年 8 月に設計を京都工芸繊維大学に委託することとなり、11 月末には設計が完成した。12 月中には建物改修事業者を決定し、工事は 3 月末までに完成した。</p>
39	実施内容の内、年度計画の「共同研究を推進する」にあたる内容はどの部分か。(No.53 には、再掲でわかりやすく記載されているが)	<p>北近畿地域連携会議（北近畿で活動する 46 団体で、国立大学法人京都工芸繊維大学、京都府立農業大学校、京都府立林業大学校、兵庫県立大学大学院等教育機関を含む）では、3 課題について、研究を行った。</p> <p>「①高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル」、「②若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ」、「③北近畿を面的に周遊する観光への挑戦」</p> <p>上記研究会に本学は事務局として議事・運営等の調整を行うとともに、研究会の一員としてその研究に加わっている。</p> <p>教員プロジェクト（平成 30 年度から「地域研究プロジェクト」に名称変更）のうち、以下の課題については他大学教員（千里金蘭大</p>

		<p>学) との共同研究である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与謝野町「かや山の家」におけるヘルスツーリズム観光活動 また、教員プロジェクトの以下の課題については、地域の市町村、団体、企業等の協力を得た研究である。 ・北近畿地域における観光地経営の経営指標とその測定指標とその測定法に関する研究 ・クルーズ船寄港による商店街振興への可能性に関する研究ー商店街周辺地域住民の受け入れ意識の規定因分析ー ・福知山市の中心市街地活性化に関する研究ー集積商業の持続可能な発展という視点からー ・北近畿市町村の地域包括ケアへの国保データベース活用状況に関する調査 ・公共施設の管理・運営に関する研究ー文化公共施設に着目してー
44	「地域の防災・危機管理に関する研究体制のあり方については検討ができなかった。」とあるが、「3」の評価にされている事情は。	地域の防災・危機管理に関する研究体制のあり方については検討ができなかったが、防災に関して京都府福知山警察署及福知山市危機管理室との協力体制については進展があったため、「3」評価とした。
48	<p>1.から 5.の事業が、年度計画の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代対象の公開講座（15 回程度） ・専門家・研究者を対象にしたセミナーや研究会（6 回程度） ・市民が講師となるゼミ（5 回程度） ・中学生から大学生及び社会人を対象としたキャリア講座（3 回程度） <p>それぞれ、どの講座にあたるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代対象の公開講座 公開講座：分野別講座と（5 回で延べ参加者数 155 人） 井口学長塾（11 回で延べ参加者数 251 人） ・専門家・研究者を対象にしたセミナーや研究会 地域創生セミナー・研究会（4 回 延べ参加者数 78 人） ・市民が講師となるゼミ まちびとゼミ：書道と福知山踊りである。 書道は日新地域公民館と連携（5 回 延べ参加者数 37 人）

		<p>福知山踊りは福知山踊振興会と連携 (2回 延べ参加人数 65人)</p> <p>・中学生から大学生及び社会人を対象としたキャリア講座 子ども・若者学び支援(計6回 延べ参加者数 348人) 富野副学長による天文教室(1回、参加者数 130人) 社会人のキャリア支援(3回 延べ参加者数 72人)</p>										
55	全学的な取組体制が、北近畿地域連携会議であると理解してよいか。	北近畿地域連携会議に関係する教員が特定されている問題点はあるので、全学的な取組体制として北近畿地域連携会議を位置づけることが課題である。										
57	年度計画は、「新たに改修、移転した北近畿地域連携センターを窓口とし、全学的かつ組織的な地域連携・協働体制を構築する。」とあるが、実施状況は、施設の利用件数や利用状況、その施設の広報の実績が記載されている。その実績と全学的かつ組織的な地域連携・協働体制を構築されたことの関連をどう読み解けばよいか教えて頂きたい。	<p>年度目標は、「北近畿地域連携センターを窓口とし、全学的かつ組織的な地域連携・協働体制を構築する。」であるが、その一つの指標として、北近畿地域連携センターの利用状況があると考ええる。利用者の中には、市役所、他大学学生、近隣児童館、NPO法人、民間団体等による地域連携等に関する利用がある。</p> <p>平成 29 年度に北近畿地域連携センター事務局に外部から地域連携について依頼があった件数は以下のとおりであった。</p> <p>団体 34 件、役所 20 件、企業 5 件、高校 1 件 合計 60 件 対応可能な案件については、該当する教員が対応している。</p> <p>その他に、平成 29 年度に大学事務局に依頼があった外部委員及び外部講師は下記のとおりであった。</p> <table border="0"> <tr> <td>講師依頼</td> <td>76 件</td> </tr> <tr> <td>委員の委嘱</td> <td>48 件</td> </tr> <tr> <td>コーディネーター</td> <td>6 件</td> </tr> <tr> <td>指導・助言者</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>16 件</td> </tr> </table>	講師依頼	76 件	委員の委嘱	48 件	コーディネーター	6 件	指導・助言者	5 件	その他	16 件
講師依頼	76 件											
委員の委嘱	48 件											
コーディネーター	6 件											
指導・助言者	5 件											
その他	16 件											

		計 151 件
61	実施内容が、就職先の確保にどのように繋がっているか、教えて頂きたい。	平成 30 年度に実施予定である 3 年生の「インターンシップ」の受け入れ先として、25 の企業・行政機関（三たん地区の企業・行政機関）43 人の履修者を予定している。これは、平成 29 年度の 9 機関 15 人から大幅に増加している。包括協定を締結した企業等が新たな受け入れ先（例：但馬信用金庫、JR 西日本、海の京都DMO）として協力いただけることとなり、就職先確保の条件整備が進んだ。
66	年度計画は全学協議会とあるが、業務の実績には研修会と記載されている。研修会とは全学協議会のことなのか。	全学協議会は、教員、職員互いに議論する場をいう。業務実績書に記載の研修は、一つの形態と考える。
68	実施内容の内、プロジェクトチームを立ち上げて対応されたのは、どの部分か。	<p>「本学の将来計画については、将来構想検討タスクフォースを立ち上げて検討し、「将来構想・第 2 次案」として理事長に報告した。理事長は、平成 29 年 7 月 19 日の運営会議及び SDFD フォーラムにおいて全教職員に本学の将来計画の説明を行った。」とは、学内によるチームの検討内容である。</p> <p>その後、福知山市が設置した「知の拠点」整備構想検討委員会及び福知山市が策定した「知の拠点」整備構想（平成 30 年 2 月）には、学長が委員として参画した。各委員会に必要な検討資料（例えば、福知山公立大学の財政運営試算（経常経費）及びキャンパス整備費用の試算等）を福知山市と協働して作成した。</p> <p>平成 30 年 3 月に学内に将来構想策定委員会、平成 30 年 4 月には学外者を含めた福知山公立大学新学部設置準備委員会を設置し、新学部設置の具体的準備・作業を進めている。</p>
71	「大学と地域の連携のあり方」について意見交換をされた内容は、どの部分か。	<p>「大学と地域の連携のあり方」についての意見交換は、北近畿地域連携会議（46 団体）の研究会、幹事会での意見交換がある。</p> <p>また、平成 29 年 7 月 26 日に実施した教員プロジェクト（平成 30</p>

		<p>年度から「地域研究プロジェクト」に名称変更)の発表会及び研究交流会(46人参加)では、一方的な報告だけでなく、ワークショップを組み込み、双方通行でコミュニケーションできる仕組みとし、意見交換を行った。</p> <p>更に、平成29年度からは包括協定締結団体8団体に集まる定期協議会を企画し、平成30年2月17日に開催した。この協議会の場で「どのような地域連携が可能なのかが一目で分かるような広報媒体を作成してほしい」「窓口を1本化してほしい」「インターンシップで連携したい」など様々な要望やニーズを確認することができた。</p>
72	研究プロジェクト成果発表会及び研究交流会、活動報告会などには、どれくらいの市民が集まったのか。	研究プロジェクト成果発表会及び研究交流会の参加者は48人、活動報告会の参加者は34人であった。
72.73	実施内容が、法人経営・大学運営にどのように反映され、経営改善にどう繋がったか教えて頂きたい。	<p>北近畿地域連携会議の幹事会、研究会は会員間の意見交換により運営している。平成30年2月17日に開催した包括協定締結団体8団体の協議は、8団体の本学に対する要望やニーズを確認することができた。平成29年7月26日に開催した地方創生推進交付金による研究費補助(教員プロジェクト)発表会では、成果発表会だけでなく研究交流会を実施し、参加した住民の意見を直に聞く機会としている。平成30年9月22日に実施した活動報告会では、アンケート調査を実施し、参加した住民の意見、要望を把握している。</p> <p>このようにして把握した、各種団体、住民の意見等は、北近畿地域連携センターの運営をはじめ大学の各事業の運営で改善が図られる。</p>
85	活動報告会の参加者数がわかれば教えてほしい。	平成29年9月22日(金)に実施した活動報告会の参加人数は34人であった。

128	<p>一般的に推薦と一般入試での学生層はそれぞれ偏差値が異なると推察するが、結果的に成績の差異が少なかったとあるが、その分析結果があれば教えてほしい。</p>	<p>推薦入試と一般入試（前期・後期）とでは、異なる方法で学力を評価している。その評価方法が適切かどうかを、大学学習の初期段階である1年次前学期の成績（GPA：Grade Point Average）を用いて分析した。</p> <p>平成29年度入学生について、1年次前学期のGPAを入試区分ごとに集計し、平均値と標準偏差を比較した。標準偏差は入試区分による違いはほとんどなかった。平均値は、推薦入試が2.59に対して、前期日程（5教科型）は2.60、前期日程（3教科型）は2.48であった（後期日程の平均値は2.94と高いものの、サンプル・サイズが小さく比較対象としては適切ではない）。推薦入試と前期日程の平均値の差は統計的に有意ではなく、この結果から、大学学習の初期段階における入試区分の違いはないと判断した。</p> <p>※1. GPA（Grade Point Average）とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことをいう。米国の大学や高校などで一般的に使われており、留学の際など学力を測る指標となる。日本においても、成績評価指標として導入する大学が増えてきている。</p> <p>※2. 本学のGPA（Grade Point Average） 学期毎にGPAを表示し、以下の計算式により算出する。 $GPA = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たグレードポイント})}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$ <small>（小数点第3位未満切り捨て）</small> 累計GPA = $\frac{(\text{各学期で得た科目の取得ポイントの合計}) \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>(小数点第3位未満切り捨て)</p> <p>注) 取得ポイントとは、科目の単位数に当該科目で得たグレードポイントポイントを乗じて得た数値</p> <p>成績表示に対するグレードポイントは、次のとおりとする。</p> <p>評価 グレードポイント</p> <p>秀 4.0 優 3.0 良 2.0 可 1.0 不可・放棄 0.0</p> <p>(公立大学法人福知山公立大学履修規程第10条による)</p>
130	プレスリリースを行った結果、実際の掲載に至ったのは何件あるのか。	福知山市記者クラブをはじめとする報道各社へのプレスリリースを64件行い、そのうち45件が報道された。
152	クールビズの記載はあるが、「不要な照明を使用しないルール」も実施されたのか。	<p>空調の冷房運転、暖房運転の稼働開始時期に、メールで照明を含めた省エネルギー活動の推進について全職員に通知した。</p> <p>具体的通知内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 業務に支障のない範囲で照明や冷房の電源を消す等省エネルギーを意識した行動をとる。 2 業務の効率化等、エネルギー使用の合理化に努める。